

して修正することを得れども。亦往々反對の線を添綴することあり。之れをなすには熟練と注意とを要すべし。

平地の風景は空を廣く入れて位置を面白く見せしむ。其他幾多の構圖上の方法あるべく。時には畫の一部を切り取りて位置を面白からしむることあり。尤とも此方法はやたらに爲すべきにあらず。萬止むを得ざるとき。先づ切り取らんとする部分を紙にて覆ひ結果如何を考究して後之れを爲すべし。例へば高山を畫くに當り往々低く圖を取ることにあり。之れを少しく高く見せん爲めには。空を一部分切り取るときは直ちに高さを増すべし。

構圖に就て語るべきことは此他にも猶尠なからず。畫中の一物と一物との照應。明暗の配置等は畫の趣以外に別に考究すべき肝要なる事なるが。是等は所謂構圖法に屬し。極めて興味あるものなれども。畫家にとりては又た極めて困難なる問題なるべし。

瀑布

瀑布の吾人に興ふる感想は、線の美に述べた如く、水は高所より落つる爲め碎けて泡沫となるので白を呈し、飛散するものは霧となるので、これに日が直射するときは日の映は七彩の虹の如く現はれ、輪は二重三重となることがあつて美しいのである、灌壺は水力のために堀れ、深碧色を現はしてゐる、これを描くには、白は紙の地を現はし、霧の如きものは淡く残すのでホワイトを用ひぬがよい、白の影色は青にインヂゴを用ひるのである、稍々大なる彩沫の白は、小刀にて紙を削り、紙の地の白を現はすのである。(丸山晚霞氏、女性と趣味)